



エコアクション 21 環境経営レポート



第 58 期 2024 年 5 月～2025 年 4 月



白石鉄工株式会社

令和 7 年 5 月 31 日



目次

● 1	組織の概要	1
● 2	認証・登録範囲及び組織図	2
● 3	環境経営方針	3
● 4	運用期間及び中期環境経営目標	4
● 5	当期間の主要な環境経営計画	5
● 6	環境経営計画の実施体制	7
● 7	目標の実績	8
● 8	環境経営計画の取組結果とその評価	12
● 9	問題点の是正処置及び予防処置の結果	15
● 10	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	16
● 11	環境関連法規などの遵守状況及び違反、訴訟等の有無	16
● 12	代表者による全体評価と見直しの結果	17



1 組織の概要

(1) 名称及び代表者

白石鉄工株式会社

代表取締役 本田 和明

(2) 会社設立年月日 1961 年 9 月

(3) 資本金 4,800 万円

(4) 所在地

本社工場	北九州市小倉南区新曽根 1 番 1 号
第二工場	北九州市小倉南区新曽根 5 番 31 号
新門司工場	北九州市門司区新門司 3 丁目 67 番 47 号
新門司機工センター	北九州市門司区新門司 3 丁目 4 番
工事部	北九州市小倉南区新曽根 1 番 28 号
大分事業所	大分県大分市牧 1 丁目 7 番 16 号 河野ビル 1F

(5) 環境管理責任者及び担当者氏名並びに連絡先

環境管理責任者	神農 宏明 (設計部 課長)
	TEL 093-472-3411 (本社工場)
環境管理担当者	白石 嘉乃子 (取締役 管理本部長)
	TEL 093-472-3411 (本社工場)

(6) 事業内容

製造業 (金属製品、鋼構造物の製作)

建設業 (鋼構造物工事業)

(7) 事業規模

売上高 2,145 百万円 (令和 6 年 5 月～令和 7 年 4 月)

	本社工場	第二工場	新門司工場	新門司機工センター	工事部	大分事業所
従業員数	48	16	27	2	10	2
延べ床面積	3,190 m ²	4,380 m ²	2,390 m ²	2,130 m ²	520 m ²	40 m ²

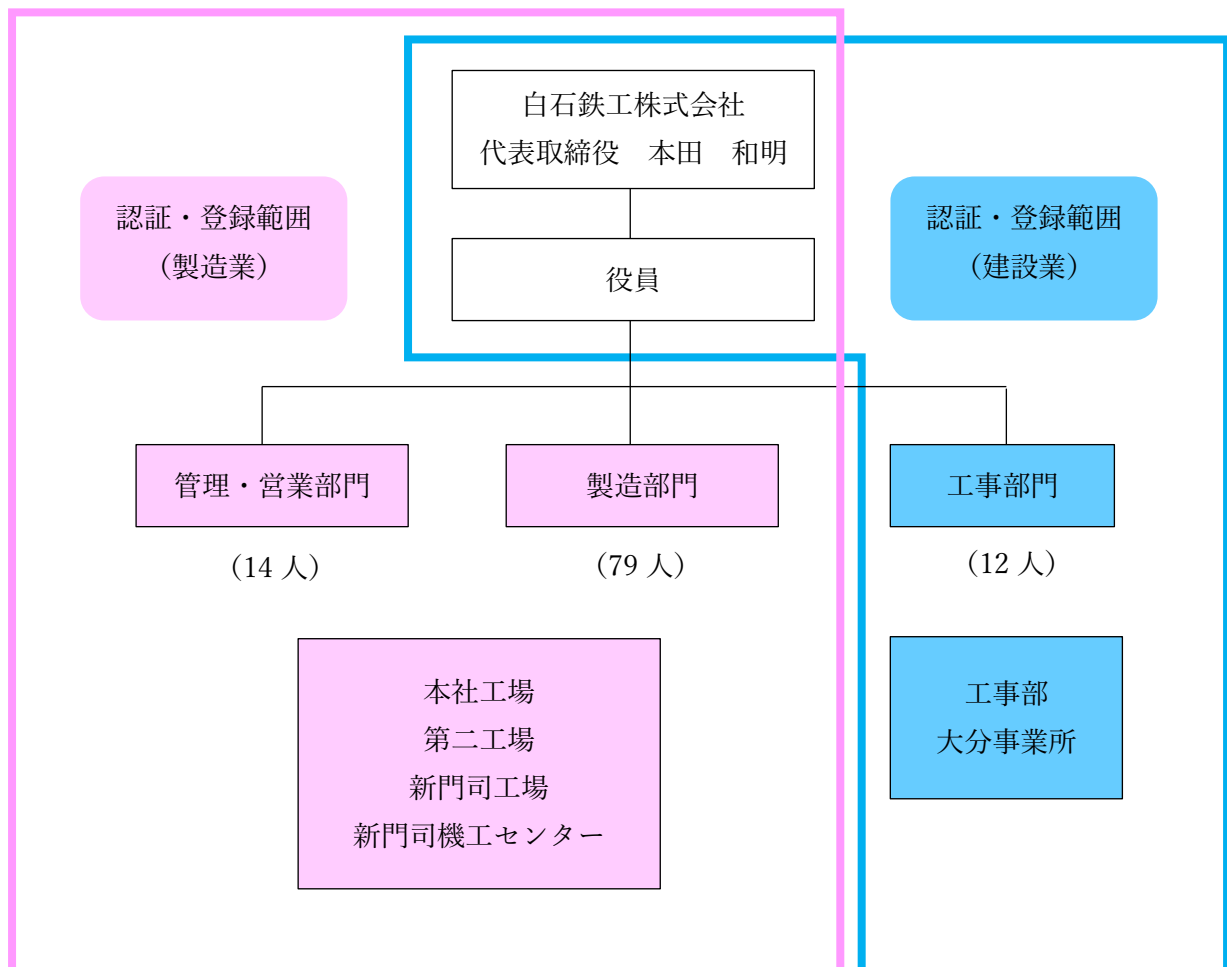
(8) 事業年度 5 月～4 月

(今回の経営レポートの対象期間は、令和 6 年 5 月～令和 7 年 4 月)



2 認証・登録範囲及び組織図

- (1) 対象事業者名 白石鉄工株式会社
- (2) 対象事業活動 製造業（金属製品・鋼構造物の製作）
建設業（鋼構造物工事業）
- (3) 対象事業所 製造業 本社工場
第二工場
新門司工場
新門司機工センター
建設業 工事部
大分事業所





3 環境経営方針

基本理念

白石鉄工株式会社は、地球環境改善を重要な課題と位置づけ、鋼構造物の製作を通じて環境への負荷低減に積極的に取り組めます。

そのため環境経営システムを構築・運用することにより、継続的かつ着実に環境保全活動を行い、次世代に承継できる環境の実現を目指します。

行動指針

環境経営システムを構築・運用し、環境関連法規等を遵守するとともに、環境負荷の低減に取り組めます。以下の行動指針に基づき、環境経営目標及び環境経営活動計画を定め、定期的な見直しを行い、継続性のある活動を展開します。

1. 二酸化炭素排出削減に取り組めます。
使用エネルギー（電気、ガソリン、軽油）の削減に努めます。
2. 廃棄物の削減
板取りなどを工夫し、材料ロスを低減させ、廃棄物の削減に努めます。
書類の電子化を推進するなど、紙使用量の削減を図ります。
3. 水使用量の削減
節水に努め、水使用量を削減します。
4. 環境負荷の低い機械（騒音・振動・省エネ）を積極的に使用します。
5. リサイクル品などの環境に良い商品の購入・採用に努めます。
6. 水力発電、風力発電、バイオマス発電の再生可能エネルギー関連設備工事の受注を通し、温室効果ガス削減に貢献します。
7. 事業活動に関連する安全衛生及び環境関連法規等を遵守します。
8. ISO 9001の活動により、品質の向上を図り、不適合品・クレームの削減に努めます。
9. 5S活動を推進し、品質と生産性を向上させることによって、環境負荷低減を目指します。
10. 安全衛生活動を通じ、安全で働きやすい環境の構築に努めます。
11. 地域社会との環境コミュニケーションを良くし、地域の環境保全に努めます。
12. この環境経営方針は、従業員全員に周知するとともに、研修や教育・訓練を行い全社員の環境保全に向けた意識の向上に努めます。
13. 基本理念を実現するため、環境経営の継続的改善を誓約します。
14. この環境経営方針は広く一般に公表します。

令和3年1月1日制定

令和5年1月1日改定

白石鉄工株式会社
代表取締役 本田 和明



4 運用期間及び中長期環境経営目標

項目	単位	基準	目標				
		55 期 2021/5～2022/4	58 期 2024/5～2025/4	59 期 2025/5～2026/4	60 期 2026/5～2027/4	2030 年 (64 期)	
二酸化炭素排出量 の削減	Kg- CO2	379,271	371,686 (-2%)	369,789 (-2.5%)	367,893 (-3%)	360,307 (-5%)	
電力使用量の削減	kWh	651,056	638,035	634,780	631,524	618,503	
ガソリン使用量の 削減	ℓ	23,438	22,969	22,852	22,735	22,266	
軽油使用量の削減	ℓ	22,504	22,054	21,941	21,829	21,379	
灯油使用量の削減	ℓ	2,312	2,266	2,254	2,243	2,196	
液化石油ガス使用 量の削減	Kg	3,741	3,666	3,647	3,628	3,554	
一般廃棄物排出量 の削減	Kg	4,220	4,136	4,115	4,093	4,009	
産業廃棄物の 再資源化率	%	43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	
水使用量の削減	m ³	3,310	3,244	3,227	3,211	3,145	
安全衛生活動の 継続		—	継続	継続	継続	継続	
5 S 活動の継続		—	継続	継続	継続	継続	
CSR 活動の実施		—	活動実施	継続	継続	継続	
不適合製品・クレ ームの削減			取組実施	継続	継続	継続	
製品・サービスに 関する事項		—	継続	継続	継続	継続	

* 電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力の 2019 年度の調整後排出係数 0.371kg-CO2/kWh および、ミツウロコの 2021 年度の調整後排出係数 0.389kg-CO2/kWh を用いた。

* 産業廃棄物再資源化率の目標値は 56 期・57 期（2022.5～2024.4）の平均値を用いた。



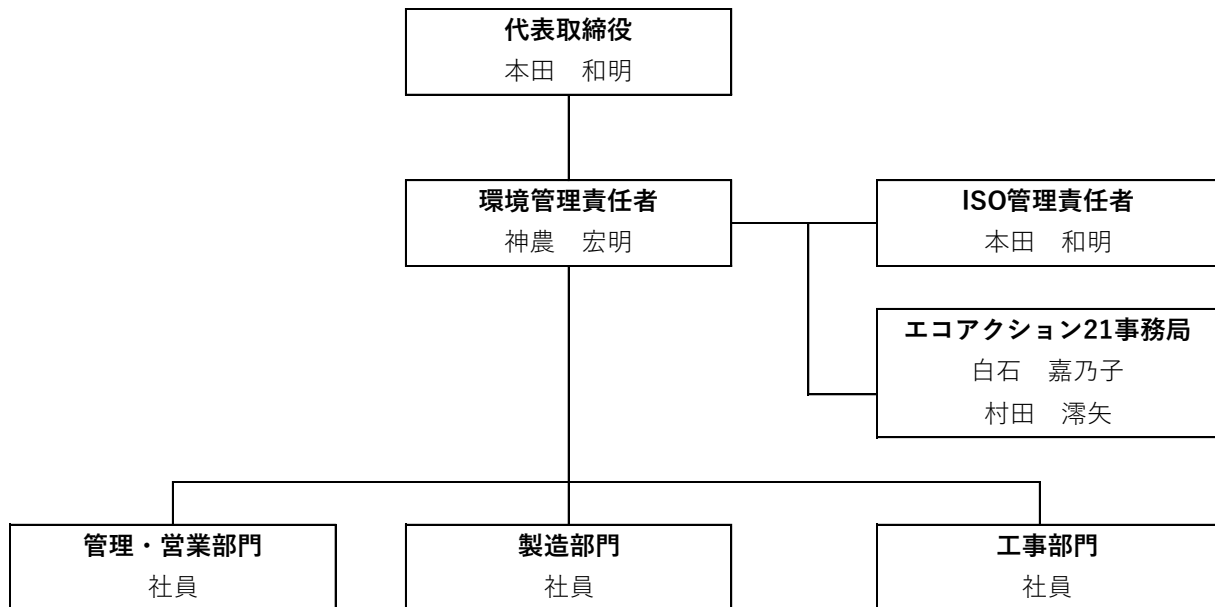
5 当期間の主要な環境経営計画

項目	SDGs との関連	計画内容
電力使用量の削減	    	* 室温管理の徹底 * 昼休み・退社時の消灯
燃料使用量の削減	    	* エコドライブの徹底 * 効率のよい作業管理 * 未使用時の整備点検
廃棄物総排出量の削減	      	* 書類の電子化 * 資源ゴミの分別の徹底 * 材料ロスの削減 * 産業廃棄物の再資源化率 43%を目指す
水使用量の削減	 	* 適正利用を心掛ける * 水漏れ点検を定期的実施
安全衛生活動の継続・推進	   	* 安全衛生委員会の実施 * 安全衛生活動、教育の実施 * 健康診断、産業医面談等の実施
5 S 活動の継続・推進	   	* 5 S 委員会の開催 * 週 1 回の職場一斉清掃の実施 * 5 S パトロールの実施
C S R 活動の実施	      	* 地域貢献活動の積極的な実施 * 社内ニュースやホームページ等で活動を社内外に発信 * CSR や SDG s に関する社内の啓もう活動の実施

不適合・クレームの削減	3 すべての人に健康と福祉を 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	* ISO9001 運用を形骸化させずに現場で効果的に実行し浸透させる * 不適合の原因究明・分析・今後の対策を徹底して行う
製品・サービスに関する事項	3 すべての人に健康と福祉を 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	* 環境関連設備や新エネルギー事業関連の受注活動を積極的に行う * 自社製品に関する情報を全社員が理解・共有できる活動を行う * 知識や技術の向上を目指す



6 環境経営計画の実施体制



氏名・部門	所属（役職）	役割・責任・権限・使命
本田 和明	代表者	* 全体の統括、経営における課題とチャンスを整理・明確化し、環境方針の設定、実施体制の構築、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直し
神農 宏明	環境管理責任者	* 全体の把握／環境経営システムを構築し、運用し、その状況を社長に報告する
本田 和明	ISO管理責任者	* 品質マネジメントシステムとエコアクション21の環境マネジメントシステムを関連付け、運用しその状況を社長に報告する
白石 嘉乃子 村田 滯矢	エコアクション21事務局	* エコアクション21文書及び記録類の作成・維持・管理
本田 和明	営業部門 工事部門	* 営業部門・工事部門の環境管理
江藤 俊彦	製造部門	* 製造部門の環境管理
宮脇 圭太	管理部門	* 管理部門の環境管理



7 目標の実績（全社）

項目	単位	目標	58 期実績 2024/5～2025/4	
			達成率	
二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO2	371,686	334,263	111.2%
電力使用量の削減	kWh	638,035	625,542	102.0%
ガソリン使用量の削減	ℓ	22,969	19,940	115.2%
軽油使用量の削減	ℓ	22,054	14,056	156.9%
灯油使用量の削減	ℓ	2,266	1,091	207.7%
液化石油ガス使用量の削減	Kg	3,666	2,986	122.8%
一般廃棄物排出量の削減	Kg	4,136	5,023	82.3%
産業廃棄物の再資源化率	%	43.0	93.8	218.1%
水使用量の削減	m ³	3,244	2,831	114.6%
安全衛生活動の継続	—	—	B	—
5 S 活動の継続	—	—	A	—
CSR 活動の実施	—	—	A	—
不適合製品・クレームの削減	—	—	C	—
製品・サービスに関する事項	—	—	B	—

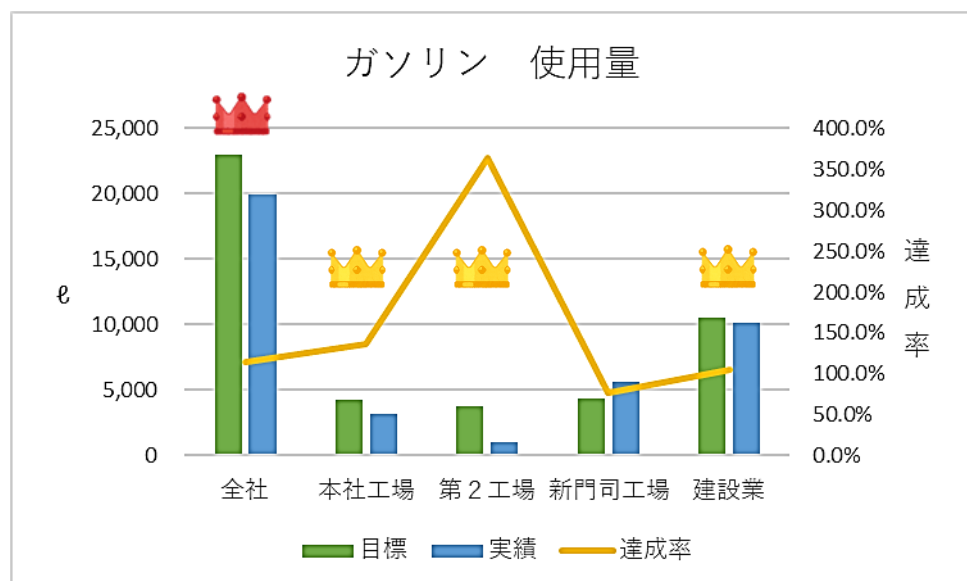
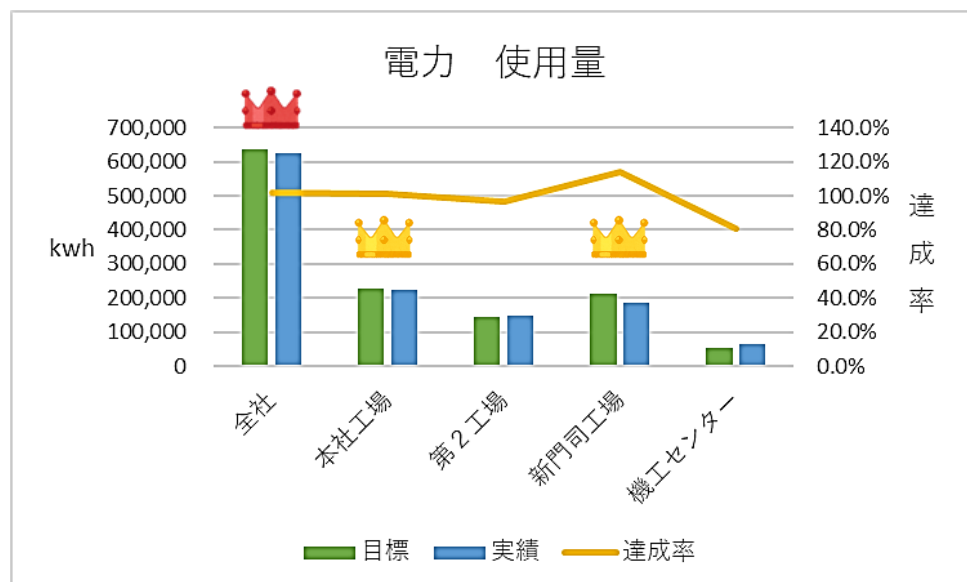
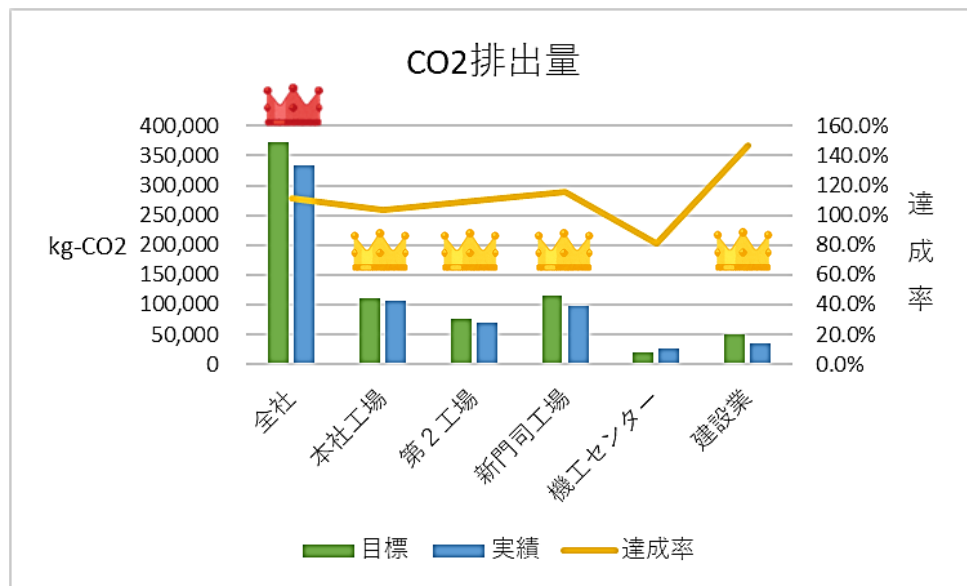
* 電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力の 2019 年度の調整後排出係数 0.371kg-CO2/kWh および、ミツウロコの 2021 年度の調整後排出係数 0.389kg-CO2/kWh を用いた。

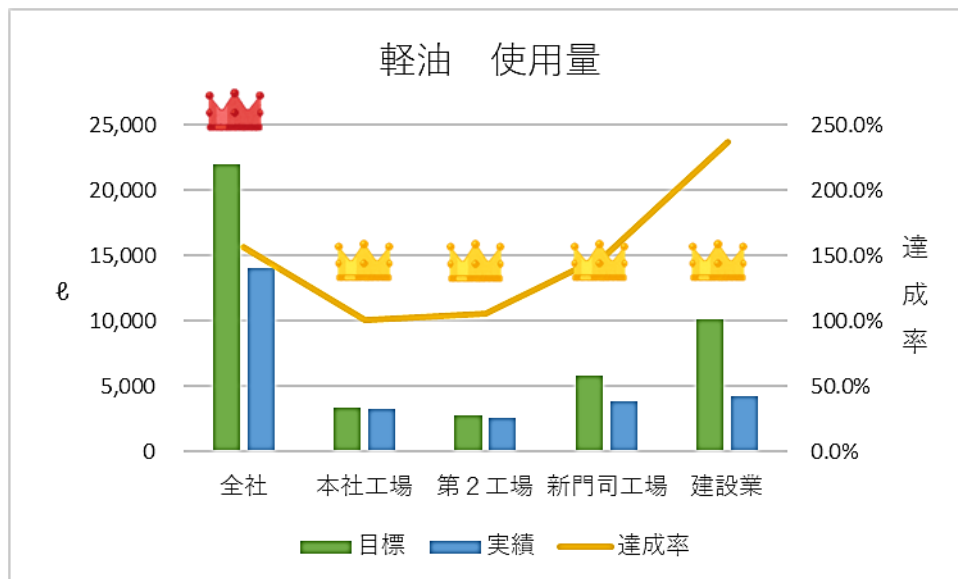
* 産業廃棄物再資源化率の目標値は 56 期・57 期（2022.5～2024.4）の平均値を用いた。

* 取組実績評価の表記 A:良好な実績・B:普通程度の実績・C:活動不足・—:未活動とする。

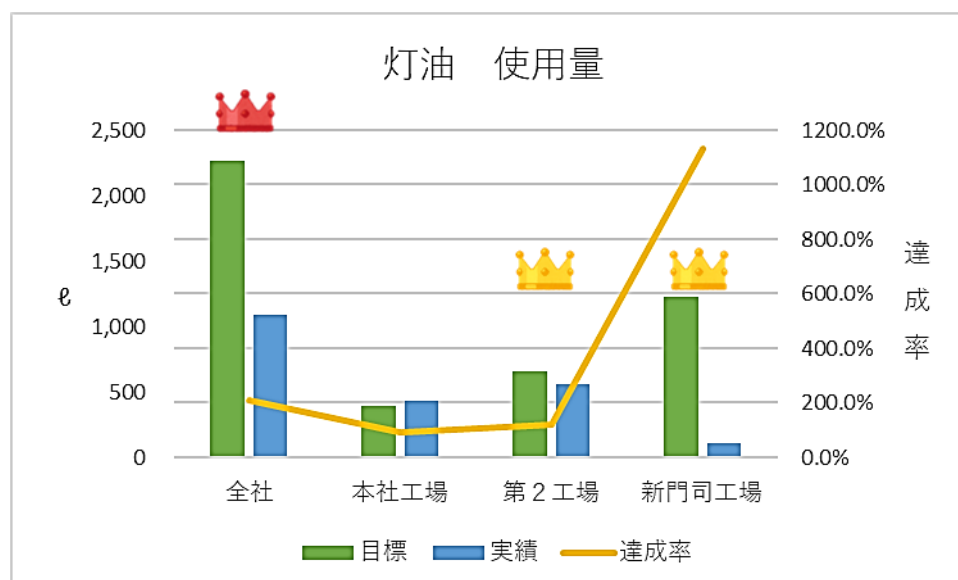


7 目標の実績（工場別・項目別）

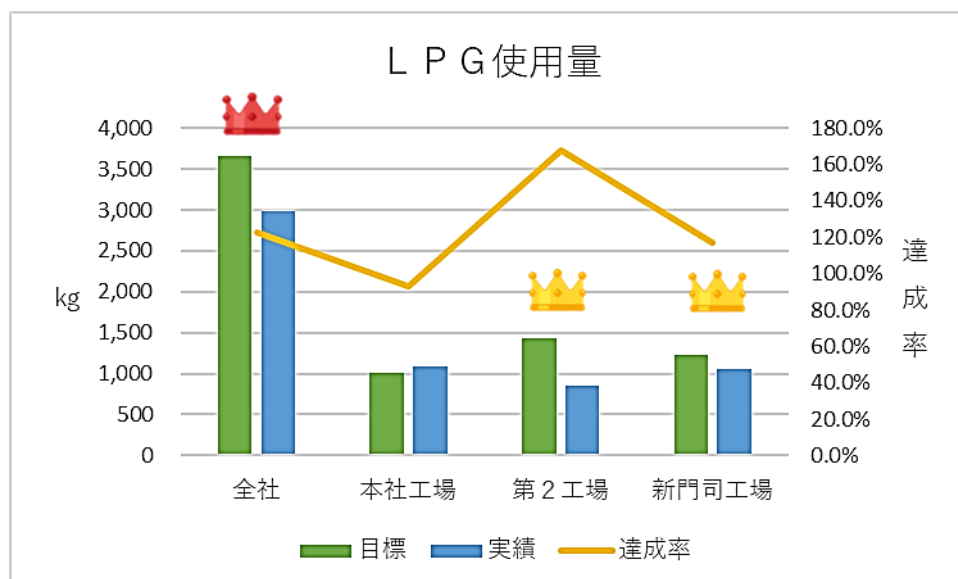




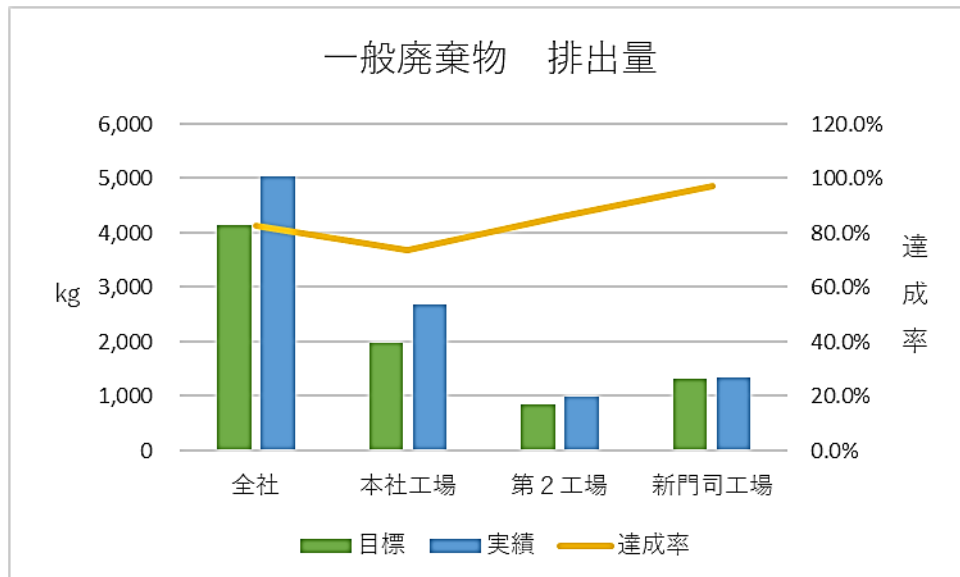
※ 機工センター分は3工場に按分



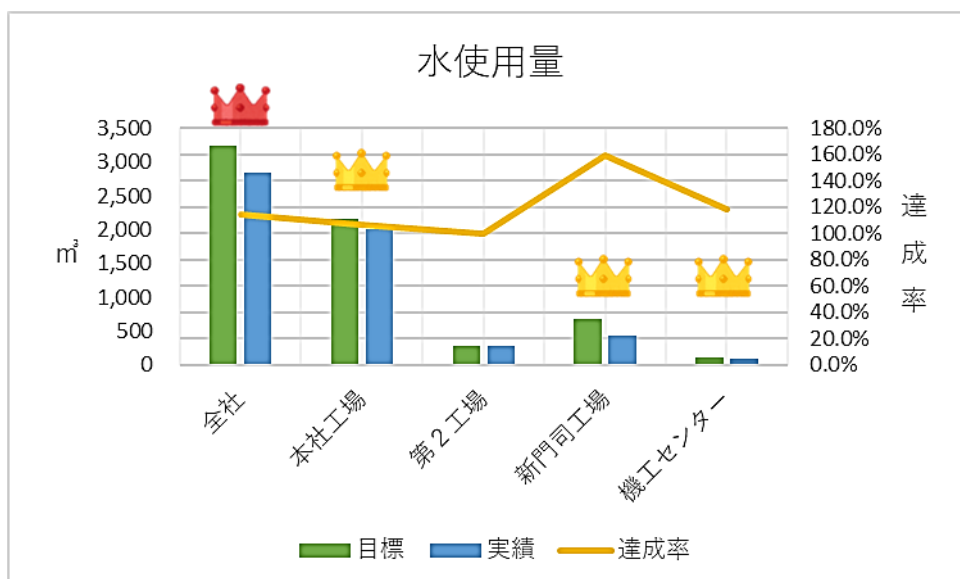
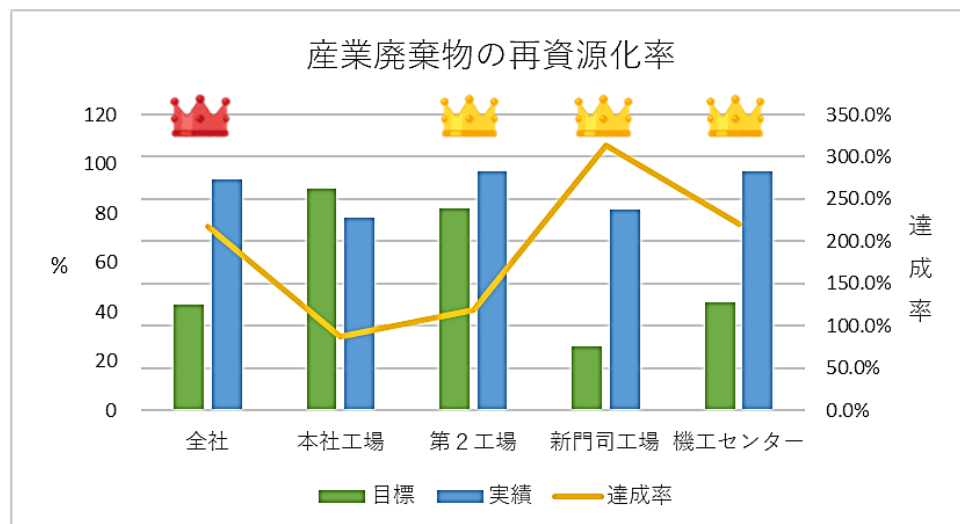
※ 機工センター分は3工場に按分



※ 機工センター分は3工場に按分



※ 機工センター分は3工場に按分





8 環境経営計画の取組結果とその評価

項目	取組結果	評価
電力使用量の削減	* 目標達成 (102.0%)	* 第2工場と機工センターが未達だったが、今後もこのペースで削減を進めていきたい。
燃料使用量の削減	* ガソリン・軽油・灯油・LPG 使用量すべて目標達成	* 軽油使用量はすべての拠点で目標を達成した。ガソリン・軽油に関しては業務のリモート化を進める等、移動の機会を減らせるよう取り組んでいく。
廃棄物総排出量の削減	* 一般廃棄物… 目標未達 (82.3%) * 産業廃棄物の再資源化率… 目標達成 (218.1%)	* 一般廃棄物はどの拠点も未達であった。今年度は第2工場の廃止・新門司工場への移転があり、移転作業に伴う廃棄物が発生した事も原因の一つと思われる。 * 産業廃棄物の再資源化率は目標達成。
水使用量の削減	* 目標達成 (114.6%)	* 当社はタンク製造の品質検査において水張試験を実施する等、受注した製品によって使用量の影響があるが、今後も適正使用の声掛けを続けていきたい
安全衛生活動の継続・推進	* 月一回の安全衛生教育、パトロール、委員会を実施 * 産業医による健康相談、パトロール、環境測定の実施 * 防災訓練（応急手当訓練）の実施	* 労働災害事故が8件発生した。安全衛生に対する基本を委員会ははじめ社員全員で見直し、現状を改善していきたい。 * 防災訓練を総合的な内容から、より具体的な訓練へと移行していき、自衛防災組織担当者はじめ全社員が当事者意識をもって取り組むように進めていきたい。
5 S 活動の継続・推進	* 週一回の職場一斉清掃を実施 * 三か月毎の5 S 委員会の開催	* 5 S 活動をより活性化していくために、委員会ははじめ社員全員で基本を見直し改善していきたい。

C S R活動の 実施	* Eco Vadis（エコバディス）による CSR 評価を受審し、総合スコア 58/100（コミットメントバッジ）の発行を受けた。 * ホームページによる地域貢献活動の発信 * 社内広報誌による情報発信 * 地域の歩道清掃や献血等のボランティア活動の実施	* エコバディスによる受審を通じて、社内の CSR 活動に対する改善や再評価を行う事ができた。 * お客様からの要求事項として、CSR 活動の重要性が年々高まってきているため、今後も積極的に活動していきたい。
不適合・クレームの削減	* ISO9001 の規程や運用の見直しを実施 * 不適合の評価の見直しを実施	* ISO9001 への取り組みを全面的に見直す事で、ISO9001 の本来の主な目的の一つである不適合・クレームの削減に有効に繋げていきたい。
製品・サービスに関する事項	* 自社製品の、社会状況や地球環境との関わりを全社員に共有する広報活動の実施	* 自社製品がどのような役割を持った製品で、どこに据え付けられ、どのように世の中や地球環境に関わっていくのか等の情報を、全社員で共有する取り組みを積極的に進めていきたい。

省エネ（節電）の取組



節水の取組



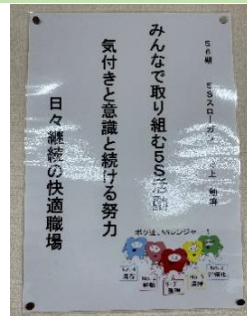
ゴミ減量化・リサイクルの取組



排ガス低減の取組



5S・安全衛生活動の取組



社内広報（CSR 活動・製品サービス）の取組



緊急時訓練（防災訓練）2024年9月28日実施



地域貢献（清掃活動）





9 問題点の是正処置及び予防処置の結果

問題点の発生確認日	2025年5月31日
問題点の項目	58期の数値目標管理項目の実績が揃い、目標未達の項目が判明した ・一般廃棄物排出量の削減
問題点の内容	・一般廃棄物排出量の削減達成率が82.3% 内訳 本社工場 73.6% 第2工場 85.8% 新門司工場 97.3%
問題点の発生要因	・今年度は第2工場の廃止・新門司工場への移転があり、 移転作業に伴う廃棄物が発生した事も原因の一つと思われる
改善対策の内容	・廃棄物の分別を見直し、排出量削減に繋げる
実施のスケジュール	2025年6月の会議の場で、各部門長に改善対策の内容を伝える
対策実施の結果確認	2025年5月末時点で未実施である



10 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

結果に大きな変化がないので、来期も同様の計画・目標とする。



11 環境関連法規などの遵守状況及び違反、訴訟等の有無

当社が遵守しなければならない主な環境関連法規等は次の通り。

法律名等	主な遵守事項または規制基準
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律（公害防止組織法）	公害防止統括者の選任 公害防止管理者の選任
騒音規制法	特定施設の届出
振動規制法	特定施設の届出
消防法	火災予防
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	事業系一般廃棄物の処理 産業廃棄物の委託処理 マニフェスト管理
フロン排出規制法	エアコン・冷凍（冷蔵）機器の点検
労働安全衛生法	事務所、作業場の環境保全

それらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はなかった。なお、関係当局及び利害関係者からの違反等の指摘及び訴訟もなかった。



12 代表者による全体評価と見直しの結果

- (1) 売上金額当たりの CO2 の排出量が今期増加している。売上減少額の約 7 割は材料支給案件が増えたことなどによる外注製作費の減少にあたり、固定費あたりで考えると前期同等の結果であり、特に問題ないと判断するが、来期は活動の内容を注意していきたい。
- (2) 石炭アンモニア混焼設備関連の受注が良好に推移しており、来期も新エネルギー案件の受注増を目指す。
- (3) 来期から、第二工場の新門司工場への移転効果が本格化し、これまで全体の 4 分の 1 を占めていた鉄骨工事がなくなることで、電力使用量などがこれまでと大幅に変化することが予想される。この工場移転によって CO2 排出量が増加しないよう、特に新門司工場スタッフをターゲットとして、再教育や啓もう活動を行っていきたい。